

2013（平成 25）年度 事業報告書

2013 年 5 月 1 日～2014 年 4 月 30 日

アイキャン日本事務局

460-0011

愛知県名古屋市中区大須 3 丁目 5-4

矢場町パークビル 9 階

TEL:052-253-7299

E-MAIL:info@ican.or.jp

HP:http://www.ican.or.jp

認定NPO法人 アジア日本相互交流センター

**INTERNATIONAL CHILDREN'S
ACTION NETWORK**

Not "for" the People, but 'with' the People

※International Children's Action Networkは、
ICANのフィリピン法人名です。

2013 年度を振り返って

11月8日、超大型の台風がフィリピン中部を襲う。現地の報道は、情報が錯綜していて、具体的な被害状況はわからない。ただ、レイテ島タクロバンを中心に壊滅的な被害があることは確かだった。渋滞が予想されたセブ島やマニラ方向からのルートを手感的に避け、一般的に選ばれないであろうミンダナオからのルートを選択した。ミンダナオで調達した食料をフェリーに積み、5日後の13日には、最も被害の大きかった地域の1つであるレイテ島東部にて、食料の提供を開始した。

朝6時にレイテ島南端を出発し、壊滅的な被害を受けているドゥラグ周辺の地域に着くのが、朝9時頃。そこから食料を提供し、終わったら、翌日に食料提供を予定している村で準備を行う。そして、真っ暗闇の中、3時間かけて、かろうじて電波を拾うことができるレイテ島の最南端まで戻っていく。何度も電波が途切れる中、朝4時頃まで、電話とメールで、マニラと日本事務局、外部機関と連絡を取り続け、1時間ほど休んで、朝5時にはまた食料を積んだトラックとともに北上する。この生活が何ヶ月も繰り返された。壊滅的な被害を前に、物資を入れ続けなければ、多くの命が危険にさらされることは確かだった。

フィリピンは世界有数の災害大国と言われる。しかしそれは、この国が、地理的に台風の進路に位置しているからだけではない。多くの人々は、十分な教育を受けることもできず、収入も得られない。薄い板や葉で作られた家に住んでいる。このような状態で、台風がやってくれば、大きな被害となるのは必然と言える。悲劇を繰り返さないために、私たちが闘うべき相手は、台風や地震自体ではなく、自然災害の被害拡大の根底にある、「大多数の人々が教育も、医療も、職業も、住居も、食事も満足に得られない脆弱な状態そのもの」なのだ。

今年度、平和な社会を作り上げることを目的に18の事業を行ってきた。それは、今回の大型台風による被害を繰り返さないための、脆弱性そのものへの介入に他ならない。「できたこと」と「できなかったこと」をきちんと振り返り、次年度以降さらに「できること」を増やしていくために、ここに設立20年目となる2013年度の活動と運営状況を報告する。世界中の子どもたちが、笑顔で暮らせる日が、1日も早く来ることを願って。

2013 年成果概要

「危機的状況にある子どもたちと『ともに』行うプログラム」を通じて、2013年度生活が向上した人数

82,005 人

・団体

(空腹を満たされた59,511人、家を再建した10,062人、教育環境が向上した4,927人)

(武力以外の紛争の解決方法を学んだ2,943人、新たに技術を手に入れた2,821人、他)

「『できること(ICAN)』を実践する人を増やすプログラム」を通じて、2013年度できることを実践した人数

18,017 人

・団体

寄付者数6,417名・団体

—個人寄付者4,004名

—法人団体寄付 270団体

—街頭募金寄付者2,143名

(世界の貧困問題等について学んだ8,184人、改善しようと行動した9,833人)

合計 100,022 人・団体

注：上記は、「延べ数」ではなく、事業に直接的に参加した人数に寄付者・会員・ボランティアを加えた実数表記となります。例えば、年20回ボランティアをしても1人と数えており、また、保健師の研修を行い、その後益を受ける患者数等の「間接的な人数」も含まれていません。上記の数には団体も含まれているので、例えば、500の生徒が募金活動をして、1つの学校の名前でアイキャンに寄付をした場合、1として計算しています。また、本報告書本文の数字も可能な限り、「延べ数」ではなく、実数表記にしております。

2013 年度のハイライト

1、「危機的状況にある子どもたち」のプログラム

～台風ハイエンの発生にも関わらず、予定していた活動の多くを実施し、最大の成果を出すことができました～

- ・ミンダナオ島を重点地域とし、積極的に展開する方針のもと、「紛争の影響を受けた子どもたち」、「先住民の子どもたち」、「災害の影響を受けた子どもたち」、「ジェネラルサントスの子どもたち」の事業として、同島内 5 つの州で継続的に教育、保健、生計向上、平和構築、復興の活動を実施しました。災害の影響により、中期事業計画の策定等、年度の後半に予定していたものを一部次年度の実施に延期したものの、基本的に予定していた活動のほぼすべてを実施することができ、ミンダナオ北東部地域への事業拡大も、順調に進みました。
- ・首都マニラでは、都市化に伴う様々な弊害の解決を目的に、前年度に引き続き、「ごみ処分場周辺に住む子どもたち」と「路上の子どもたち」の事業を実施しました。前者では、これまでに住民によって設立された協同組合への助言とフェアトレード生産者に対する新商品開発の研修を行いました。後者の路上の子どもの事業では、子どもたちを一時的に保護するドロップインセンターを開設し、また長期保護施設建設用の土地を購入しました。
- ・バタンガス州やオリエンタル・ミンドロ州において、JICA や企業と連携し、「障がいを持った子どもたち」(BOP ビジネス) や「電気のない村の子どもたち」(中小企業進出) の事業を開始し、社会課題解決を目指しました。
- ・「災害の影響を受けた子どもたち」の事業では、前年度から引き続き、2011 年に発生した台風 21 号、2012 年に発生した台風 24 号被災地において、幼稚園や小学校を建設するとともに、2013 年に発生した台風 30 号の被災地における緊急救援活動では、約 1 万世帯に食料を届けることができました。また、頻発する大規模な災害に対応するために、ジャンププラットフォームに加盟し、災害に関する国際的なネットワークを強化しました。
- ・「外国にルーツを持つ子どもたち」の事業では、ボランティアのコーディネーターと翻訳ボランティアが、日本語の読めない親たちに学校のプリント 183 枚を翻訳しました。また、年度の後半に予定していた「子どもの参加を促進する事業」は、台風 30 号の影響により、次年度に延期といたしました。

2、「『できること(ICAN)』を増やす」プログラム

～台風ハイエンに関連する「MY アイキャン事業」では、大きく事業が成長した一方、その他の事業では、基本的に継続はできたものの、次年度に持ち越さなければならなかった活動が多くありました～

- ・「MY アイキャン事業」の街頭募金では、台風ハイエン発生後、参加者・寄付者ともに増加し、昨年度 82 名(延べ 116 名)が参加し、642 名から寄付を得ていましたが、今年度は、170 名(延べ 280 名)が参加し、2,143 名から寄付を得ることができました。昨年度に続き、中高生の参加が目立ちました。書き損じハガキや切手等の寄付は、地元の協同組合との連携により、昨年度の 1,999,213 円分から 3,803,673 円分へと大幅に増加しました。
- ・フィリピンでの受け入れ関連事業である「国際理解教育事業」の海外研修や事業地訪問では、昨年度の 16 校(団体)から 14 校(団体)へ、個人一般公募型の「スタディツアー・研修事業」では、参加者数は昨年度の 51 名から 43 名へと減少しました。減少の理由は、大規模災害発生に伴い、11 月以降の訪問受け入れの停止や 12 月のスタディツアーの開催を中止したことによります。
- ・英語やタガログ語を学ぶ「語学教室事業(スマイルチケット)」では、昨年の 399 授業受講者 46 名から 366 授業 42 名へと減少し、また「フェアトレード事業」の収入も 160 万円から 143 万円へと減少しました。これらは、年度の後期に予定していた事業の経営改革が次年度に持ち越されたことによります。
- ・「国際理解教育事業」における海外研修や事業地訪問以外の活動では、日本の学校での講演が、昨年度 16 件から 19 件へと増加しましたが、計画していたフィリピンの学校での授業は、次年度へと持ち越しになりました。
- ・2013 年度も引き続き「NGO 相談員事業」を受託し、1,060 件の NGO に関する相談に対応しました。
- ・「インターン育成事業」では日本人 1 名、フィリピン人 13 名を受け入れました。

3、組織体制の盤石化

～フィリピンの事務所・拠点は大幅に増加し、フィリピンの大部分をカバーすることができるようになった一方、経営改革の横断重点項目の達成率は、約6割にとどまりました～

1) 事務所運営（日本とフィリピンで12拠点）

- ・重点地域であるミンダナオ島において、今年度スリガオ市に北東部事務所を開設しました。これにより、平和構築や先住民等のそれぞれの専門を持った北部、中部、南部、北東部のミンダナオ4事務所が、同島128,110 km²の面積の85%以上の地域をカバーできるようになり、ミンダナオ島の課題を効果的に解決できる実施体制を確立することができました。
- ・台風ハイエンに対する緊急救援と長期的な復興の拠点として、タクロバン市にレイテ島中部事務所を、緊急期の物資調整用事務所として、サンリカルド町にレイテ島南部事務所を開設しました。また、障がいを持つ子どもたちの事業を実施する拠点として、バタンガス事務所を開設しました。
- ・台風ハイエン発生以降、マニラ事務所は、レイテに滞在するスタッフと国際NGOとの連携の拠点となり、また日本事務局は、日本の寄付者や報道関係者との窓口として機能しました。これまでの膨大な業務量がさらに増加する中、職員が一丸となって乗り越えることができました。

2) 横断重点項目

- ・台風ハイエンにより、膨れ上がる業務量に対し、日本人職員の増員は行わなかったため、予定していた経営改善項目のいくつかを次年度へ持ち越しました。
- ・「(3) 中間管理職の能力強化」の項目において、事務局長やフィリピン事務所代表から、各地のプロジェクトマネージャーという指揮系統の間に、複数の事業を管理する担当者のポジションができ、事業数が増加する中でも、きめ細やかな対応を取り続けることができるようになりました。また日本事務局職員に、外部研修参加や海外出張の機会を提供するとともに、フィリピンの日本人・フィリピン人職員に、他事務所の事業視察や意見交換の機会を提供しました。また台風ハイエン発生以降は、フィリピン事務所間での人材の移動を柔軟に行い、業務効率を高めることができました。フィリピン人スタッフの中からプロジェクトマネージャーを育成するという点は、今年度達成できず、課題として残りました。
- ・「(5) 会計作業の効率化とチェック体制の充実」の項目において、日本とフィリピン全資産を監査する外部監査人（日本NPO学会元監事・公認会計士馬場英朗氏）が付きました。これにより、事務局長や監事による内部監査に加え、大口の事業の外部監査、フィリピン法人全体の外部監査、日本とフィリピンの全資産の外部監査と三重のチェック体制となり、お金を預かる立場としてのアカウントビリティを高めることができました。一方、弥生会計ソフトの入力方法を見直す等による作業の簡素化を図りましたが、仕分数が18,793にのぼる中、今年度も多くの時間が会計に費やされる結果となりました。
- ・「(6) 理念と価値の積極的共有」の項目において、Facebookを通じた日本語と英語の情報発信を開始し、年度末時点で1,799の「いいね」を得ることができました。約7割が日本から、約2割がフィリピンからのアクセスとなっています。英語のホームページの作成は、次年度に持ち越しとなりました。事務所間の人材交流は、上述の通り、予定通り実施し、理念と価値の共有を促進することができました。
- ・「(7) ネットワークの拡大」の項目においては、フィリピン国内のNGOとのネットワークは、昨年度までと大きく変わらなかったものの、アジアやアメリカを拠点とするNGOとのネットワークが築かれ、1つ1つの活動や総務・会計上の国際基準を取り入れ、活動の質を向上させることができました。
- ・上記以外の「(1) 長期経営ビジョンと中期経営方針の策定」、「(2) 理事会のガバナンス機能の強化」、「(4) 労働環境の向上『長く安心して働ける組織を目指して』」の3点は、次年度に持ち越しとなりました。
- ・この他に、日本事務局では、定款や就業規則、給料規定等の見直し、物品寄付集計のシステム化等を行い、マニラ事務所では、フィリピンにおける法律面での組織体制を強化するために、顧問弁護士と契約を行いました。

4、財政面の強化

1)2013 年度決算額 「活動計算書」「貸借対照表」「財産目録」「注記」資料参照

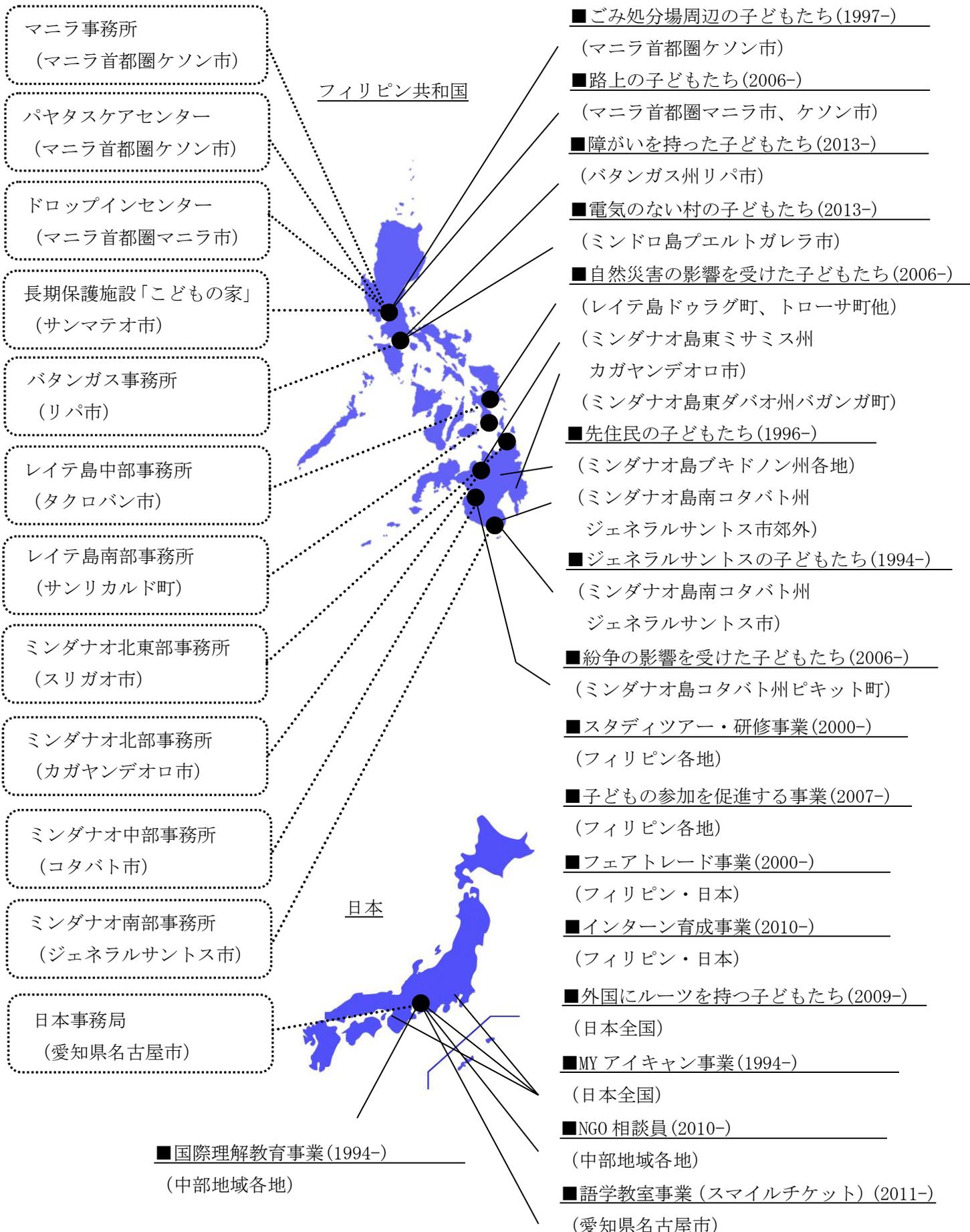
2)概要

- ・**今年度収入**は、2 億 8,484 万円となり、2005 年から 8 年連続の収入増となりました。この内、約 51%の 1 億 4,239 万円は、台風 30 号ハイエン被災者に対する緊急救援活動への寄付金、助成金が占めており、この内訳は、59% (8,457 万円) が日本、39% (5,485 万円) がアメリカ、2% (297 万円) がフィリピンからの収入でした。これに対し、**今年度支出**は、2 億 3,115 万円となり、アイキャンの活動を通じて生活が向上した人の数を 82,005 人、「できること」を実践した人の数を 18,017 人にまで増やすことができました。
- ・2008 年より中期計画を立て、その増加を組織一丸となり目指している**自己資金収入** (会費・寄付・自主事業収入で構成) は、今年度 7,157 万円となり、2008 年から 5 年連続で増加となったものの、台風 30 号ハイエンに関する指定寄付を除くと、前年度と比べ、横ばい状態となっています。これは、11 月の台風 30 号発生により、自己資金増加の取り組みの多くを中止せざるを得なかったことに起因します。また、新しい「自己資金増加中期計画」を策定予定でしたが、同様の理由により、次年度へと持ち越しになりました。
- ・自己資金収入の詳細ですが、**会費収入**に関しては、マンスリー寄付への移行もあり、前年度に続いて減額となりました。**寄付収入**では、台風 30 号ハイエン被災地への緊急援活動に対して 4,725 万円の寄付を預かり、被災地において緊急救援活動を効果的に展開できた一方、当初予定していた「路上の子どもの長期保護施設建設」に対する寄付は、災害発生以降一切なくなり、後述の通り、団体の財務状況に大きな影響を及ぼしています。前年度に始まったマンスリーパートナー寄付制度は、前年度の 65 万円 (41 名) から今年度 135 万円 (90 名) に増加することができました。**自主事業収入**では、スマイルチケットの収入が 219 万円から 196 万円に、スタディツア어의収入が 301 万円から 250 万円に、フェアトレードの収入が 160 万円から 143 万円にそれぞれ前年度から減少し、自主事業収入全体で 250 万円ほどの減少となりました。
- ・**国等からの助成・受託収入**に関して、前年度に引き続き、JICA 草の根技術協力事業、外務省 NGO 相談員、外務省 NGO 連携無償資金協力によって、計画通りの収入を得るとともに、企業との連携で、JICA BOP ビジネス協力準備調査事業による新たな収入を得ることができました。また**民間からの助成・受託事業**に関しても、前年度に引き続き、フィリピンでの開発事業の質を高めることにより、企業や財団等から多くの賛同を得ることができました。助成金件数は、前年度の 14 件から 26 件に、受託金件数は、前年度の 6 件から 9 件に増加し、今年度の特徴としては、台風 30 号ハイエンの緊急救援に関する助成を多く頂いたことと、日本国外からの助成金を得ることができたことがあげられます。また、これまでと同様に、複数回の助成や受託を頂くケースが多く、助成団体や委託団体と長期的な信頼関係を築くことができていると感じています。
- ・前年度から繰り越した正味財産額は 4,738 万円であり、これに当期増加した正味財産額 5,408 万円を足すと、**次年度に繰り越す正味財産**は、1 億 146 万円となります。しかしながら、この内、4,229 万円は次年度以降に使用が確定している指定寄付であり、これに、マニラにある路上の子どもたちの児童養護施設の土地等の固定資産 3,231 万円、次年度に使用する建設資金 500 万円を合わせると 7,960 万円となり、現預金で自由に活動や運営に使用できる資金は、2,186 万円となります。この財務悪化の主な原因は、身寄りがない路上の子どもたちの施設の設立プロジェクトが予定通り進めることができ、多くの支出が発生した一方、11 月に台風 30 号ハイエンが発生し、予定していた寄付をほぼ全て失ったことに起因します。団体としては、日々命の危険にさらされて生活を送っている路上の子どもたち等の既存のプロジェクトの実施に対する責任がある一方、今回の台風の被災者の置かれている状況も命に関わるものであったため、難しい経営判断となりましたが、どちらに対しても責任を果たしていくことといたしました。多くの会員、賛同者の方々に、財務状況を広く正確に公開するとともに、団体として守りたい子どもたちの状況を丁寧に説明することで、財政の安定を目指します。

アイキャン拠点及び事業地分布図

アイキャン拠点（事務所）

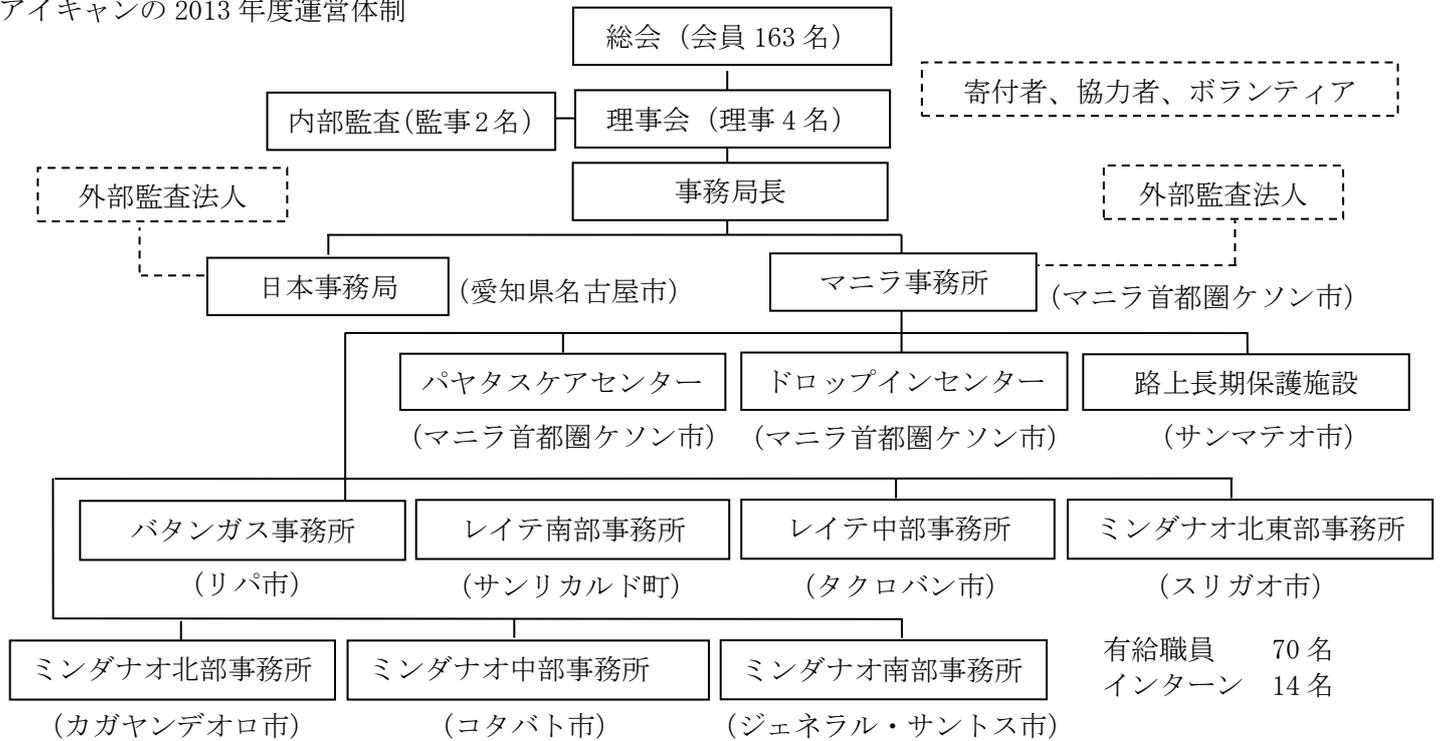
アイキャン実施中プロジェクト



アイキャンの概要

アイキャンの始まり	フィリピンを訪れた一人の会社員が、路上の子どもたちと出会い、自分たちにも「できること(ICAN)」はないかと思い、1994年4月1日に設立。(2000年法人化)	
アイキャンが解決したい課題	現在に至っても、紛争や「貧困」などの暴力に脅かされ、可能性を開花することができない危機的な状況に置かれている子どもたちが世界中にいます。	地球規模の様々な課題に対し、生まれ育った地域に根差して取り組むことができる機会は、依然として限られており、日本では特に東京以外の地域において顕著です。
アイキャンの理念	「アイキャンな人(できることを実践する人)」を増やすことで、世界中の子どもたちが享受できる平和な社会をつくります。	
アイキャンの2013年度事業	I、「できること(ICAN)」を増やすプログラム 1、紛争の影響を受けた子どもたち 2、路上の子どもたち 3、先住民の子どもたち 4、ごみ処分場周辺に住む子どもたち 5、自然災害の影響を受けた子どもたち 6、障がいを持った子どもたち 7、電気がない村の子どもたち 8、ジェネラル・サントスの子どもたち 9、外国にルーツを持つ子どもたち 10、子どもの参加を促進する事業	II、「できること(ICAN)」を増やすプログラム 11、国際理解教育事業 12、語学教室事業(スマイルチケット) 13、スタディツアー・研修事業 14、フェアトレード事業 15、NGO相談員事業 16、インターン育成事業 17、MYアイキャン事業 18、小規模委託事業

アイキャンの2013年度運営体制



代表理事 田口 京子 養護学校教諭

理事

鈴木 真帆 看護師、JICA エチオピア事務所
 高畑 幸 静岡県立大学国際関係学部准教授(文学博士)
 宮脇 聡史 大阪大学大学院言語文化研究科講師(文学博士)

監事

龍田 成人 設立者、豊田中央研究所(工学博士)
 林 俊彰 林税理士事務所(税理士)

参加ネットワーク 9件 (前年度8件)

ネットワーク・団体名	種別	詳細
(特活) ジャパンプラットフォーム	賛助会員 カテゴリ 2	緊急救援のネットワーク NGO
(特活) 国際協力 NGO センター (JANIC)	正会員	全国規模のネットワーク NGO
(特活) 名古屋 NGO センター	正会員	中部地域のネットワーク NGO
児童労働ネットワーク	正会員	児童労働解消を目的としたネットワーク
「動く→動かす」	正会員	ミレニアム開発目標達成のための NGO ネットワーク
NGO と企業の連携推進ネットワーク	正会員	NGO と企業の連携を推進する全国ネットワーク
多文化共生リソースセンター東海	正会員	東海地域の多文化共生を促進するネットワーク
中部 ESD 拠点協議会	参加団体	中部地域の ESD を促進するネットワーク
National Council of Social Development Foundation	正会員	フィリピンの社会開発のための組織のネットワーク

寄付によるパートナー ※敬称略

寄付によるパートナー 270 法人・団体

【ア行】 アーユス仏教国際協力ネットワーク、ICSB、愛知教育大学ボランティアサークル、愛知啓成高等学校、愛知県高浜市立翼小学校、愛知県立旭丘高等学校 KCC、愛知県立一色高等学校、愛知県立春日井工業高等学校、愛知県立刈谷東高等学校、愛知県立天白高等学校、愛知県立常滑高等学校、愛知県立豊田工業高等学校、愛知県立中村高等学校 JRC 部、愛知県立名古屋西高等学校、愛知県立日進西高等学校、愛知工業大学名電高等学校、愛知語学サービス、愛知淑徳大学、愛知淑徳中学校、アウトバック、アカシア会、アサーナ、アジア・ハート・ミニストリー、あすてボランティア、東きふね幼稚園、足立区立第四中学校、アバディーン投信投資顧問、アルファフォース、アンカーネットワークサービス、e-work、イオンリテール、いきつ、イタリア食堂 Girasole、樹商事、1.17 追悼・連帯・講義の集い、イトー企画合同会社、稲美北中学校、イニシエイト、犬山グッドウィルガイド、犬山市社会福祉協議会、犬山市立東部中学校、茨城県立境特別支援学校、医療法人偕行会法人本部、医療法人金子医院、インフォート建築事業部、WE21 ジャパン都筑、裏千家淡交会、HIV と人権・情報センター、エクステンド、ECO-BRANCH、エシカルペネロープ、エステックス・インターナショナル、SPP、エスペーロ、江戸屋、延命院檀信徒有志、近江兄弟社、大分国際チャリティー、大阪大学外国語部管弦楽団、大阪府立芥川高等学校、岡崎市立六ツ美中学校、岡崎市立本宿小学校、オズビジョン、オフィス TEN、尾鷲市国際交流協会、Onziii Act

【カ行】 ガーデン、ガールスカウト岐阜県第八団、ガールスカウト三重県、鹿児島市立福平中学校、柏崎市立南中学校、可児市国際交流協会、金田行政書士事務所、カネパッケージフィリピン社、カフェアイリス、カフェすずらん、かみひとねっとわーく京都事務局、カモン、川地工務店、関西化学工業、北方町国際交流クラブ、北九州子どもの村小学校中学校、KIFAV 日本語教室、岐阜県可児市立今渡北小学校、岐阜県立大垣北高等学校、岐阜日野自動車、GALAXY STAR INTERNATIONAL INC.、Kyoto Pag-asa Philippine community、キリンの夢、グラント、栗田工業、恵泉女学園信和会、K.N.C、元気サロンマリイット、こいのぼり、幸田町立南部中学校、神戸市立南五葉小学校、神戸ミッションチャーチ、珈琲倶楽部、珈琲豆屋コモン、コープあいち、コープあいち中川センター、国際教養大学 V-ACT、国際協力 NGO センター (JANIC)、国士舘大学上村ゼミナール、コスモスの会

【サ行】 在フィリピン日本大使館夫人部、桜丘高等学校、茶房よしやま、サンタクロースの会、CJV インターナショナル、ジェイトレード、ジェーピーツーワン、至学館高等学校、設楽町立田口小学校、社会貢献共同

体ユナイテッド・アース、ジャパンツアー、住宅エコポイント事務局、昭和村立昭和小学校、SHOP 池信、白川電気、白川電気土木、真如苑、寿がきや食品、Spice worx、スポーツフェスタ出席者一同、スリーナイン、西遠女子学園、聖カピタニオ女子高等学校、誠信高等学校、聖霊高等学校一年生、聖霊高等学校 DAC 部、聖霊中学高等学校、聖霊幼稚園、瀬木学園愛知みずほ大学瑞穂高等学校、積水ハウス、瀬戸窯業高等学校、セラピースペースパレット

【タ行】第 30 青年経営者研修塾、タイム技研、タカ・エンタープライズ、田縣神社、千ぐさ、知多市立旭北小学校、茶一民、中京大学環境サークル NEO、黄柳野学園黄柳野高等学校、津島市立西小学校、土川商店、ツナガル、ディースリー、ディーパ心理オフィス、ディーブブルーフィクション、てとてと、デンソー、天理教フィリピンズ、東海テレビ、東海理化、東邦高等学校、所沢園芸センター、とよあけ災害ボランティアネットワーク、豊明市立大宮小学校、豊川市立八南小学校、豊田市国際交流協会、豊田市立前林中学校、豊橋市立石巻小学校、豊橋市立北部中学校、豊橋市立吉田方中学校、豊橋不動産、ドリームザイダン、Dream World OHATA、とんぼの会

【ナ行】中村英数学園、名古屋 NGO センター、名古屋学院大学、名古屋経済大学高蔵中学校、名古屋高等学校卒業生有志、名古屋国際中学・高等学校、名古屋商科大学、名古屋市立伊勢山中学校、名古屋市立沢上中学校、名古屋市立豊正中学校、名古屋市立白山中学校、名古屋市立若葉中学校、名古屋大学大学院、名古屋中学校、名古屋フェアトレード・タウンにしよう会、ナチュラルプランツ、なにやろ会、奈良県立二階堂高等学校、NANDEMO KAI、にいがた NGO ネットワーク、西尾市立一色南部小学校、西尾市立福地北部小学校、西尾市立平坂小学校、日建コンサルティング、日進市立日進西中学校、西宮福音教会 JEC レディース委員会、日本キリスト財団、日本自動車部品総合研究所、日本福祉大学附属高等学校国際協力部、日本郵便、布池教会

【ハ行】ハイチの会、函館練成会高等部、長谷川亨歯科クリニック、はちみつカフェ、ハヤイコーポレーション、バリア일랜드、ピア、光ヒーリングセンター、PICO JAPAN Inc、ヒッポメンタルクリニック、ヒナタヤ、ピナツボ・アエタ教育里親プログラム、美容室髪人形、Village、広島アライアンス教会、Hiroshima Filopino Association (広島フィリピン人協会)、フィゴー、フィリピン災害支援 DAMAYAN 実行委員会、フィリピン災害復興支援基金、フェアトレーディング、フェアトレード&エコショップオゾン、フェアトレードコーナー抱、フェニックス救援隊、富士ゼロックス、富士ゼロックス神奈川、伏見教会こどもの教会、扶桑町立扶桑中学校、ブックオフコーポレーション、FIWC 九州、プロspa、ヘルシングあい、Voice of Hope、北海道ペンテコステ教会、北摂三田高校、ポケット、ホワイト企画、HONDA CARS 神奈川中元住吉店

【マ行】マジックマーマ、松波動物病院、松屋コーヒー本店、マニラグリークラブ、マニラ日本人学校、マブチバーバーショップ、丸孝織布、M-EMS 環境倶楽部、みえ NPO ネットワークセンター、三河海老新聞販売所、みずたに、みどり共同購入会、美濃加茂国際交流協会、みのや北村酒店、三原市立西小学校、美保野学園みほの幼稚園、宮城学院高等学校、みよし市立三好丘小学校、夢茶や、ムラマツセイサクジヨ、名央産業、明治学院大学ハビタット MGU、Mediba、メディカル・インサイト、メリノール女子学院高等学校、守山友愛病院

【ヤ行】ヤクモ那須工場、ヤフー、山のハム工房グローバル、ユアーズ・コーポレーション、ユースサポートそよ風、ユープロジェクト、ゆずりは学園、夢ふうせん、ヨガハート名古屋、

【ラ行】Love for All チャリティコンサート実行委員会、Rabbrise、ラグーナテクノパーク、リバープロジェクト、わらべ村、LEAD JUHTAKU CENTER, INC

【ワ行】ワインの会出席者一同

寄付によるパートナー 6,147 名（個人一般寄付者 4,004 名、街頭募金寄付者 2,143 名）

個人情報保護の観点から氏名は割愛 ※件数ではなく実人数の表記

助成事業によるパートナー

団体・機関名・助成金名	事業名・事業内容
助成事業によるパートナー 26件	
公益信託アドラ国際援助基金 (2012年8月～2013年7月)	フィリピンミンダナオ島台風災害に対する被災住民組織強化事業：被災者による保健環境向上活動等
外務省 NGO 連携無償資金協力 (2012年11月～2013年11月)	ミンダナオ島紛争地ピキットにおける教育を通じた平和構築事業（2年目）：紛争地における平和構築
外務省 NGO 連携無償資金協力 (2013年3月～2014年3月)	フィリピンミンダナオ島先住民族の子どもたちの地域開発プロジェクト（2年目）：学校建設や児童会の強化等
公益信託愛・地球博開催地域社会貢献基金 (2013年4月～2014年3月)	2016年のミンダナオ和平合意に向けた「平和のキルト」運動：和平合意の機運を高める啓発活動と平和教育
大阪コミュニティ財団がつこう基金 (2013年4月～2014年3月)	フィリピンミンダナオ島北部台風被災者の子どもの教育環境向上プロジェクト：学校建設や学用品提供、防災教育
東海地域 NGO 活動助成金 (2013年4月～2014年3月)	ミンダナオ島北部先住民の教育環境向上プロジェクト：先住民の子どもへの学用品の提供と人類学的調査
アジア生協協力基金 (2013年4月～2014年2月)	フィリピン最大のごみ処分場における女性フェアトレード生産者団体強化プロジェクト
積水ハウス株式会社 (2013年4月～2014年3月)	ミンダナオ島南部超大型台風被害を受けた子どもたちの教育を通じた復興事業
公益財団法人パブリックリソースセンター (2013年4月～)	先住民の子どもの教育事業：教育環境向上
デンソー はあとふる基金 (2013年6月～8月)	チャリティ英会話教室に必要な備品の購入
(特活) 国際協力 NGO センター/JANIC (2013年10月～2014年3月)	公益財団法人庭野平和財団主催：地域の『縁』と NGO におけるファンドレイジング
株式会社フェリシモ 地球村の基金 (2013年11月～12月)	フィリピン中部大型台風災害緊急救援事業
あんのん基金 (2013年11月～3月)	フィリピン中部大型台風30号（ハイエン）緊急救援事業
Church World Service(CWS) (2013年11月～2014年1月)	Emergency Response to Typhoon Haiyan (Yolanda) Affected Families and Communities Philippines
Japan Platform(JPF) (2013年12月～2014年1月)	レイテ島東部被災住民の住宅再建事業
外務省 NGO 連携無償資金協力 (2013年11月～2014年11月)	ミンダナオ島紛争地ピキットにおける教育を通じた平和構築事業（3年目）：紛争地における平和構築
あんのん基金 (2013年12月～2014年5月)	「子どもの家」を設立し、路上の子どもたちの夢を叶えるプロジェクト！
株式会社フェリシモ 地球村の基金 (2013年12月～2014年5月)	「子どもの家」を設立し、路上の子どもたちの夢を叶えるプロジェクト！
Japan Platform(JPF) (2014年2月～2014年8月)	レイテ島東部被災地における教育の再生事業

外務省 NGO 連携無償資金協力 (2014年3月～2015年3月)	フィリピンミンダナオ島先住民族の子どもたちの地域開発プロジェクト(3年目): 学校建設や児童会の強化等
Church World Service(CWS) (2014年1月～2014年10月)	Emergency Shelter Assistance to Typhoon Haiyan (Yolanda) Affected Families in Leyte and Biliran, Philippines,
毎日新聞大阪社会事業団 世界子ども救援金 (2014年4月～2015年3月)	台風で被災した子どもたち約2500人に学用品を提供する
日本国際協力財団 (2014年4月～2015年3月)	ミンダナオ島北部先住民の保健衛生環境向上プロジェクト
東海地域 NGO 活動助成金 (2014年4月～2015年3月)	マニラの「路上の子どもの家」をつくるプロジェクト
大阪コミュニティ財団 (2014年4月～2015年3月)	「子どもの家」を設立し、路上の子どもの夢を叶えるプロジェクト
積水ハウス株式会社 (2014年4月～2015年3月)	「子どもの家」を設立し、路上の子どもの夢を叶えるプロジェクト

受託事業によるパートナー

団体・機関名	事業名・事業内容
受託事業によるパートナー 9件	
(独)国際協力機構(JICA) 草の根技術協力 (2013年4月～2014年3月)	路上の子どもたちによる子どもの権利をまもるプロジェクト(3年目): マニラの路上の子どもの生活向上
外務省 (2013年5月～2014年3月)	外務省 NGO 相談員(5年目): 中部地域における NGO に関する相談窓口
(学) 栗本学園 名古屋国際中学校・高校 (2013年7月)	国際理解研修(3年目): 開発問題の学習と将来のキャリア形成を目的とした高校生の海外研修の現地コーディネート
(国立) 広島大学生物生産学部 (2013年9月)	フィリピン研修(3年目): 住民参加による海洋管理等の学習を目的とした大学生の海外研修の現地コーディネート
(特活) ケアインターナショナルジャパン (2013年10月)	外務省 NGO 研究会「ジェンダーと NGO」: 中部開催に伴う会場提供と開催準備
喜多機械産業株式会社 (2013年11月～2014年9月)	「小水力発電を利用した未電化地域開発・実証事業に係る業務委託」(組織・維持管理)に関する業務委託契約書
四国電力株式会社(JICA BOP ビジネス) (2013年10月～2014年10月)	JICA BOP ビジネス協力準備調査事業: 電気メータリサイクルによる障がいを持った若者の雇用創出事業
中部電力株式会社 (2013年11月～2014年3月)	フィリピンの子どもたちと被災地の子どもたちを“みどり”でつなぐ活動(3年目): 植林と環境教育ボランティア活動
(独)国際協力機構(JICA) 草の根技術協力 (2014年4月～2015年3月)	路上の子どもたちによる子どもの権利をまもるプロジェクト(4年目): マニラの路上の子どもの生活向上

メディア掲載 79件 (前年度 17件)

日付		媒体名	題名・番組名	内容
6月	15日	THE BIG ISSUE JAPAN	フィリピンの紛争地帯で“暴力の文化”をなくす地方に存在することの強みを活かし、大きく成長	活動紹介
7月	29日	Ayus YEAR BOOK 2013	フィリピン・ミンダナオ島南部超大型台風災害緊急救援事業	台風被害
9月	12日	PTV 4	International Children's Action Network, itu-turnover ang gusali ng Barangay Elem School sa Gensan	学校建設
9月	13日	PTV NEWS	ICAN, nagpatayo ng gusali sa elementary school sa GenSan	学校建設
9月	16日	Manila Bulletin	Japan funds P37-M school projects	学校建設
9月	18日	まにら新聞	コタバトで学校建設	学校建設
9月	18日	ABS-CBN TV	Bagong Classrooms	学校建設
9月	19日	Phil. News Agency	Japan donates school buildings in North Cotabato's conflict-affected schools	学校建設
9月	20日	共同通信社	Japan-funded school building opens for tribal children in Mindanao	学校建設
9月	20日	ABS-CBN NEWS	Japan-funded school opens for B' laan children	学校建設
9月	21日	Notre Dame Broadcasting Corporation Network Radio	ICAN Foundation turns over school of peace in Pikit, Cotabato	学校建設
9月	21日	The Mindanao Cross	Japanese-led foundation magbibigay ng mga school building sa Pikit, North Cotabato	学校建設
9月	21日	DXMS Radio	Japanese-led foundation magbibigay ng mga school building sa Pikit, North Cotabato	学校建設
9月	23日	DXMY Radio	Turnover ng School of Peace sa Pikit, matagumpay na naisakatuparan	学校建設
9月	25日	読売新聞	「平和の学校」2校完成	学校建設
10月	4日	キルトジャパン	紛争地の子どもたちに贈る 平和のキルト大募集!	平和のキルト
10月	8日	信濃毎日新聞	銃声が消えない	学校建設
10月	12日	中日新聞	書き損じはがき集め寄付	書き損じハガキ
10月	23日	読売新聞	比ミンダナオ島の教室飾る「平和のキルト」作って	平和のキルト
10月	27日	中日新聞	紛争ミンダナオ島 平和教育	活動紹介
11月	11日	まにら新聞	日系NPO被災地支援呼びかけ	台風被害
11月	12日	中日新聞	名古屋のNPO 現地で救援活動	台風被害
11月	13日	NHK 名古屋	ほっとイブニング	台風被害
11月	13日	NHK 名古屋	ニュース 845	台風被害
11月	13日	東海テレビ	スーパーニュース	台風被害
11月	14日	中京テレビ	キャッチ!	台風被害
11月	14日	テレビ朝日	報道ステーション	台風被害

11月	15日	朝日新聞	被災フィリピン NPO 支援の手	台風被害
11月	15日	中日新聞	支援のルート 僕らが作る	台風被害
11月	15日	名古屋テレビ	ドデスカ!	台風被害
11月	16日	毎日新聞	フィリピン支援 広がる輪	台風被害
11月	16日	NHK 総合	週刊ニュース深読み	台風被害
11月	17日	読売新聞	フィリピン支援 協力を	台風被害
11月	19日	東海テレビ	スーパーニュース	台風被害
11月	23日	Japanese Times	NGO helps towns ignored on Leyte	台風被害
11月	23日	週刊東洋経済	巨大台風で死者多数 フィリピンの教訓	台風被害
11月	25日	読売新聞	日比交流 4000人絵手紙	絵手紙交流
11月	29日	NHK 名古屋	金曜トーク	台風被害
11月	30日	NHK 名古屋	ニュース 845	台風被害
12月	2日	NHK 名古屋	ほっとイブニング	台風被害
12月	2日	NHK 名古屋	ニュース 845	台風被害
12月	3日	中日新聞	生徒労作「平和のキルト」比ミンダナオ島に寄贈へ	平和のキルト
12月	6日	朝日新聞	絵手紙で日比交流	絵手紙交流
12月	8日	中日新聞	フィリピン・レイテ島(上)「台風被害 とてもひどく」	台風被害
12月	8日	朝日新聞	国連「復興に10年」フィリピン台風1ヶ月 日本人「少しでも力に」	台風被害
12月	10日	中日新聞	比、日本の子ども 将来の夢など描く	絵手紙交流
12月	10日	毎日新聞	比と県内の子供 絵手紙作品展	絵手紙交流
12月	13日	中日新聞	比の復興 道のり遠く	台風被害
12月	13日	NHK 名古屋 ラジオ第1	夕刊ゴジらじ	台風被害
12月	14日	読売新聞	Xマス前に「家修復を」	台風被害
12月	15日	中日新聞	フィリピン・レイテ島(下)「積極的にお手伝い」	台風被害
12月	21日	Japanese Times	Haiyan victims still suffering as Christmas nears	台風被害
12月	24日	朝日新聞	フィリピン復興進め	台風被害
12月	28日	中京テレビ	被災地活動：帰国報告会	帰国報告会
1月	6日	中日新聞	比台風被災地 支援続けて	帰国報告会
1月	8日	日本経済新聞	日本のNPO 学校再建などに奮闘	台風被害
1月	8日	静岡新聞	邦人NPO 比台風復興支え2ヵ月	台風被害
1月	8日	ABS-CBN News	Japanese aid group immerses in Yolanda-hit town	台風被害
1月	8日	産経新聞	被災経験のNPO 事務局長がフィリピンで支援活動	台風被害
1月	8日	東京新聞	地元へ寄り添い復興支援 日本のNPO、比レイテ島で奮闘	台風被害
1月	8日	中京テレビ	キャッチ!	台風被害
1月	17日	電気新聞	比ミンダナオ島に「紙芝居」の贈り物	活動紹介
2月	1日	国際開発 ジャーナル	紛争終結/和平実現から開発へ 転換期迎えるミンダナオ	活動紹介
2月	10日	読売新聞	書き損じハガキ比支援	書き損じハガキ
2月	12日	中日ショッパー	現地の人と共にフィリピン復興へ	台風被害

2月	14日	まにら新聞	ラブ・フォー・オール 2014 BabyM チャリティーコンサート	イベント案内
2月	21日	まにら新聞	ラブ・フォー・オール 2014 BabyM チャリティーコンサート	イベント案内
2月	23日	KELLY	笑顔の輪をつくる 愛すべきフェアトレード	フェアトレード
2月	24日	まにら新聞	「住民主導型復興」目指す	台風被害
2月	24日	まにら新聞	ラブ・フォー・オール 2014 BabyM チャリティーコンサート	イベント案内
2月	25日	プライマー	LOVE FOR ALL	イベント案内
2月	28日	三重タイムズ	ふれあいバザーで寄金 フィリピン難民の子供たち支援	被災地寄付
3月	—	EXPAT Travel and Lifestyle Philippines	Silver Linings after the Storm, Cover story ICAN Foundation Executive Director Sadakazu Ikawa Championing Charity in the Disaster Zone	台風被害
3月	1日	JANIC	シナジー～災害発生5日後に被災地へ 20年の経験が生んだアイキャンの活動	台風被害
3月	3日	まにら新聞	ラブ・フォー・オール 2014 BabyM チャリティーコンサート	イベント案内
3月	7日	まにら新聞	台風被災地などに収益寄付	被災地寄付
4月	9日	中日新聞	名古屋のICAN 資金苦慮 比で資材高等 復興支援に影	台風被害
4月	19日	NHK World	Rebuilding Hope in the Philippines	台風被害
4月	—	JANIC	NGOのためのファンドレイジング「書き損じハガキを通じて 地域との関係を築く」	活動紹介



1、危機的状況にある子どもたちと「ともに」行うプログラム



1、紛争の影響を受けた子どもたち（2006年～）

(1) 背景

ミンダナオ島コタバト州ピキット町周辺では、長年の紛争で約60%の住民が住む土地を追われ、今もなお、国軍と反政府軍の衝突、有力氏族間の争いが続いています。アイキャンは、2006年より学校整備や平和へ向けた研修を通して、この地域で平和を促進する学校「平和の学校（School of Peace）」作りを進めてきました。

(2) 事業地 ミンダナオ島コタバト州ピキット町

(3) 実施事務所 ミンダナオ中部事務所（コタバト市）

(4) 事業のパートナー

ピキット町紛争地の子どもと大人3,493名

(5) 主な成果

- ・「平和の学校」が6校完成しました。
- ・550名の子どもの教育環境が向上しました。
- ・2,910名の子どもと大人、教師が地域で争いを回避し、平和をつくる方法についての理解を深めました。
- ・33名のミンダナオの子どもたちによって、将来のミンダナオのビジョンと行動計画が出来上がりました。

(6) 特記事項

- ・本事業「三年計画」の内、29ヶ月が終了しました。
- ・3月に政府と反政府軍(MILF)との間で「和平合意」が締結され、本事業による地域レベルでの和平促進との間で相乗効果が見られました。

(7) 内容

1) 校舎の建設・改修

ヌグアン村高校1棟3教室（150名用）の建設、バラティカン村小学校6教室（300名用）、バラバック

村小学校2教室（100名用）の修復が完了し、「引渡し式典」を行いました。また、バルングス村、ゴコタン村、ナブンドラス村の3つの小学校でそれぞれ2教室計6教室（300名用）の校舎建設を開始しました。

2) 「平和の学校（School of Peace）」研修

① 平和の学校研修等の平和教育の実施

対象地域9村の17校において、小学生2,511名、高校生166名、小学高校教師・教育省123名、地域リーダー110名に対し、合計33回の「平和の学校」に関する研修を実施し、延べ3,285名が参加しました。

② 平和の学校宣言

州、町、村、教育省、MILF、MNLF、国際停戦監視団、日本大使館等の代表を招き、ヌグアン村、バラティカン村、バラバック村の6校の小学校、高校の生徒、教師が「平和の学校」宣言を行いました。

3) 「ミンダナオ子ども議会」

「ミンダナオ子ども議会」を開催し、ミンダナオの11の異なる民族の子ども33名がミンダナオの平和と将来について話し合いました。

4) 次年度中期事業計画(2014-17)の策定

ピキット町南部における中期事業計画の第一案が完成しました。

5) 和平交渉進展に向けた活動

ピキット町やコタバト空港に平和の啓発用看板を設置しました。反政府軍(MILF)の平和教育事業の計画が策定されました。

(8) 収支実績

収益52,203,793円 費用60,851,997円



2、路上の子どもたち（2006年～）

(1) 背景

フィリピンでは、約25万人の子どもたちが路上での生活を余儀なくされています。子どもたちは、物乞いや物売り、廃品回収業等により生計を立て、様々な危険の中暮らしています。空腹を紛らわすためにシンナーを吸い、身を守るためにギャングの一員となる子どももいます。アイキャンは、2006年より路上の子どもたちの権利を守るための様々な活動を行ってきました。

(2) 事業地 マニラ首都圏マニラ市、ケソン市

(3) 実施事務所 マニラ事務所（ケソン市）

(4) 事業のパートナー

ケソン市・マニラ市計 6ヶ所の路上の子どもたち 237名と8つの「子どもを守る委員会(BCPC)」(行政)

(5) 主な成果

- ・「路上の子どもたちの協同組合(Kalye: カリエ)」が政府機関に正式登録され、パン屋の運営を始めました。組合員は72名になりました。
- ・パートナーBCPCが計8つになりました。
- ・237名の教育、保健、栄養状態が改善しました。

(6) 特記事項

- ・今年度、5年計画の3年目が終了しました。
- ・長期保護施設建設予定地(7,616㎡)を購入しました。
- ・中期計画見直しは、次年度に持ち越しとなりました。

(7) 内容

1) BCPCの組織化及び強化研修

8つのBCPCメンバー153名に研修を17回行いました。

2) 子ども対象BCPC研修用研修

14名の路上の子どもに研修を5回行いました。

3) 路上の子どもたちの協同組合強化研修

85名の子どもが参加する協同組合についての勉強会や集会を50回行いました。

4) 子ども・若者開発銀行

55名の子どもが貯蓄活動に参加しました。

5) 路上教育活動

196名の子どもに路上教育を31回行いました。

6) 社会起業活動

62名の子どもにパン作り訓練を56回行いました。

7) ジュニアヘルスワーカー育成活動

各事業地リーダー27名に保健研修を5回行いました。

8) 路上新聞の発行

路上新聞第1号を発行しました。

9) 保健・医療活動

27名のケガや病気の子どもの治療に対応しました。

10) カウンセリング活動

ソーシャルワーカーが141名の子どもたちの悩み相談を受け、112名の子どもたちの記録を作成・更新しました。

11) 教育経費補助活動

小学生5名、高校生8名、大学生2名の子ども計15名に通学経費を提供しました。

12) 代替教育システム

5名の子どもたちを代替教育機関に紹介しました。

13) 短期、長期保護施設の建設と子どもたちの保護

マニラ市でドロップインセンターの運営を開始し、サンマテオ市で長期保護施設用地を購入しました。

(8) 収支実績 収益25,056,635円 費用22,735,286円



3、先住民の子どもたち（1996年～）

(1) 背景

ミンダナオ島の山奥には、近代社会と隔離された状態で伝統的な生活を保っているブラアンやティボリ、ヒガオノン、マノボといった先住民が住んでいます。村では、簡単に治療できるはずの病気で命を落とす子どもも多く、また学校の教室不足や教師の先住民文化に対する無理解等の課題がありました。このような状況に対し、アイキャンは先住民の人々の生活向上を目的に、教育や保健等の活動を実施してきました。

(2) 事業地

①ミンダナオ島 南コタバト州ジェネラルサントス市

②ミンダナオ島 ブキドノン州インパスゴン町等

(3) 実施事務所

①ミンダナオ南部事務所（ジェネラルサントス市）

②ミンダナオ北部事務所（カガヤンデオロ市）

(4) 事業のパートナー

先住民の子ども 603名、教師 86名、住民 164名

(5) 主な成果

- ・575名の子どもの教育環境が向上しました。
- ・試用版の先住民文化に適した児童会運営ハンドブックと教育ガイドラインが完成しました。
- ・144名が生計向上の技術を身に付けました。
- ・28名の環境に関する知識が増加しました。
- ・3つの地域の自然環境が向上しました。
- ・無医村地域において、地域の診療所となる「家タイプヘルスポスト」が10軒完成しました。
- ・先住民の人々の生活や文化についての調査記録が完

成しました。

(6) 特記事項

- ・①での事業が「三年計画」の三年目に入りました。

(7) 内容

1) 小学校校舎の建設と学用品の提供

ビアオ小学校1棟2教室（100名用）を建設し、「引渡し式典」を行いました。またヒガオノン等の子どもたち400名に、学用品の提供を行いました。

2) 児童会強化と教員研修

①の9小学校の児童会役員75名に、ハンドブック作成の研修を計7回実施し、延べ339名が参加しました。また、同9校の教師86名に、教育ガイドライン作成の研修を計9回実施し、延べ527名が参加しました。

3) 生計向上活動

①の住民144名に対して、伝統的な手工芸品の作成技術訓練や、組織運営、会計基礎等の研修を、計16回実施し、延べ650名が参加しました。

4) 保健教育

①の住民及び保健師79名に対し、保健教育を10回行い、延べ296名が参加しました。

5) 環境教育と植林

28名に環境教育を実施し、3地域で1,800の苗を植えました。

6) 調査記録活動

②で、生活や文化の住み込み調査を行いました。

(8) 収支実績

収益22,286,109円 費用22,295,980円



4、ごみ処分場周辺に住む子どもたち（1997年～）

(1) 背景

マニラ首都圏ケソン市郊外にあるパヤタス地区には、フィリピン最大のごみ処分場があります。ここでは約4,000名がリサイクルできる資源を回収し、販売することで生計をたてています。ごみ山は深刻な健康被害をもたらしており、適切な医療を受けられることは大きな課題となってきました。これに対して、アイキャンは住民とともに、2002年より保健・医療活動を行う一方、前年度までに住民の協同組合(PICO)を設立し、その組合がすべての医療や教育等の活動費を捻出し、運営する体制へと発展させてきました。

(2) 事業地 マニラ首都圏ケソン市

(3) 実施事務所 マニラ事務所（ケソン市）

(4) 事業のパートナー

ごみ処分場周辺地域に住む住民13名

(5) 主な成果

- ・新しいデザインのテディベア（商品名：しあわせのくま）が完成しました。
- ・8名の裁縫の技術と収入が向上しました。
- ・協同組合(PICO)役員5名の運営上の経営や会計に関する知識が向上しました。

(6) 特記事項

- ・フェアトレード生産者団体(SPNP)の能力強化に重点を置きました。
- ・ごみ処分場の拡大に伴い、多目的協同組合(PICO)のメンバーの多くが立ち退きに遭い、引越しを余儀なくされました。これにより、収入が減少し、

運営基盤が弱体化してきています。

- ・中期事業計画の策定は、次年度に持ち越しとなりました。

(7) 内容

1) フェアトレード生産者団体(SPNP)の強化

①新商品開発研修

日本からデザイナーを派遣し、SPNPメンバー8名に、新商品開発研修を5回実施し、延べ29名が参加しました。

②フォローアップ研修

生産者の技術を持続させるため、SPNPメンバー5名に対して、フォローアップ研修を13回実施し、延べ42名が参加しました。

③価格設定研修

SPNPメンバー8名に対して、商品の価格設定に関する研修を3回実施し、延べ43名が参加しました。

2) 多目的協同組合(PICO)のコンサルタント活動

①組合定例会での助言活動

組合役員主導の組合定例会議と臨時会議計10回参加し、活動の状況の把握と課題に対する助言を行いました。

②会計助言活動

協同組合の収入源である住民薬局の収入と組合の支出を確認し、会計について助言を行いました。

(8) 収支実績

収益 1,081,364 円 費用 1,013,018 円



5、自然災害の影響を受けた子どもたち（2006年～）

■台風30号（フィリピン名：ヨランダ）（2013年～）

(1) 背景

2013年11月、フィリピン中部を台風30号が襲い、死者・行方不明者約7,800名、被災者約1,600万名に及ぶ大災害が発生しました。災害発生直後よりレイテ島及びサマル島は孤立し、特にタクロバンから南に位置するレイテ島東部は、食料が枯渇する上に、家や学校の多くが崩壊する等壊滅的被害が発生しました。

(2) 事業地 レイテ島ドゥラグ町、トローサ町等

(3) 実施事務所

全事務所、レイテ中部事務所（タクロバン市）

(4) 事業のパートナー

レイテ島被災者74,996名

(5) 主な成果

- ・ 59,274名の空腹を満たすことができました。
- ・ 10,062名が雨風を凌ぐ住まいで生活できるようになりました。
- ・ 2,607名の大工技術が向上しました。
- ・ 30名の収入を向上させることができました。
- ・ 3,023名の子どもの教育環境が向上しました。

(6) 特記事項

- ・ 災害発生直後から現地入りを目指し、発生5日後には各国のNGOや国連機関の中で最も早く食料の提供を行うことができました。

(7) 内容

1) 水、食料及び生活用品の提供

9,879家族（59,274名分）に、水、米、缶詰、塩、砂糖、油等の食料と石鹸、水入れ、タオル、生理用ナプキン等の生活用品を提供しました。また、Food for Workとして、物資運搬に参加した77名に、米を提供しました。

2) シェルターの提供

1,677家族に対して、トタン14枚、釘4キロ、ベニヤ板8枚の家の建設資材一式を提供しました。また、326家族に対して、トタン16枚、釘18キロ、ベニヤ板8枚、ココナツ材25本の資材を提供しました。

3) 能力強化

7村の2,607名に対して、丈夫な家の作り方に関する研修を提供しました。

4) 緊急雇用（Cash for Work）

30名に5日間（延べ150日間）の丘の瓦礫を清掃する緊急雇用の機会を提供しました。

5) 学用品の提供

2,053名に対して、鞆、鉛筆、ノート、レポート用紙、物差し、クレヨン、消しゴム、鉛筆削りの学用品セットを提供しました。また、220名にサンダルと鉛筆、クレヨン、タオルを提供しました。

6) 仮設校舎の建設

仮設校舎25教室（750名分）を建設しました。

7) 校舎の修復

サンホセ小学校10教室の修復に取り掛かりました。



■台風 21 号（フィリピン名：センドン）（2011 年～）

(1) 背景

2011 年 12 月、ミンダナオ島北部を襲った台風 21 号に対し、アイキャンは食糧等の提供や保健環境の向上に努めてきましたが、仮設住宅近郊の学校では、増加する園児に対し、教室不足が発生していました。

(2) 事業地 ミンダナオ島ミサミスオリエンタル州
カガヤンデオロ市

(3) 実施事務所 ミンダナオ北部事務所

(4) 事業のパートナー

東ミサミス州の被災者 1,301 名

(5) 主な成果

- ・地域保健員 11 名の対応能力が向上しました。
- ・園児 210 名の教育環境が向上しました。
- ・1,290 名の防災に関する知識が向上しました。

(6) 特記事項

- ・今年度で終了、今後はモニタリングを継続します。

(7) 内容

1) 保健医療キットの提供

地域保健員 11 名に保健医療キットを提供しました。

2) 防災研修

28 名の教師に対して、防災の研修を行い、その後、全校児童 1,262 名による防災訓練を実施しました。

3) 学校の建設と学用品の提供

インダハグ小学校内にある附属幼稚園の校舎 1 棟 1 教室を建設し、210 名の園児へノート、鉛筆、クレヨン、計算用紙などの文具を提供しました。

■台風 24 号（フィリピン名：パブロ）（2012 年～）

(1) 背景

2012 年 12 月、ミンダナオ島南東部を襲った台風 24 号に対し、アイキャンは食糧や家の建築資材等の提供を行ってきましたが、地域では校舎の多くは壊れたままで、今年度開始時には教育の復旧が遅れていました。

(2) 事業地 ミンダナオ島東ダバオ州バガンガ町

(3) 実施事務所 ミンダナオ北部及び中部事務所

(4) 事業のパートナー

バガンガ町キナブラガン小学校の児童 498 名

(5) 主な成果

- ・498 名の教育環境が改善されました。

(6) 特記事項

- ・今年度で終了し、今後はモニタリングを継続します。

(7) 内容

1) 学校の建設と学用品の提供

キナブラガン小学校 2 教室（73 名分）の建設を行い、また児童 498 名に対して学用品を提供しました。

■自然災害の影響を受けた子どもたち全体

(7) 内容

1) 災害に対するネットワークの拡大

ジャンプラットフォーム（JPF）に加盟するとともに、Church World Service (CWS) や Mennonite Central Committee (MCC) 等との国際ネットワークを構築することで、災害時の迅速な対応が可能となりました。

(8) 収支実績

収益 145,558,507 円 費用 105,518,749 円



6、障がいを持った子どもたち（2014年～）

(1) 背景

フィリピンでは、障がいを持った若者たちの就業率が非常に低く、社会問題となってきました。一方、電気料金が東南アジア諸国に比べ突出して高く、低所得者の家計を圧迫してきました。

(2) 事業地 ルソン島バタンガス州リパ市

(3) 実施事務所 バタンガス事務所

(4) 事業のパートナー

バタンガス州の障がいを持つ青年たち32名

(5) 主な成果

- ・中間調査報告書が作成されました。
- ・32名の障がいを持つ青年たちが、電気メータメンテナンスの基本技術を習得しました。

(6) 特記事項

- ・本事業は、「JICA協力準備調査（BOPビジネス連携促進）事業」の一環として、実施されています。

(7) 内容

1) 障がいを持つ若者たちの調査

フィリピンの国レベル及びバタンガス州における障がいを持った若者たちの置かれている状況に対する調査を実施するとともに、電気メータメンテナンスによる起業の実現可能性を調査しました。

2) 電気メータメンテナンス研修の実施

32名の障がいを持つ青年たちを対象に、パートナー企業とともに電気メータのメンテナンス技術の研修を実施しました。

(8) 収支実績 収益5,895,750円 費用1,556,392円

7、電気がない村の子どもたち（2014年～）

(1) 背景

ルソン島のすぐ南にあるミンドロ島のプエルトガレラ市は、多くの人を訪れる観光地である一方、少し山の奥に入ると電気や飲料水がない地域が多く、夜間の生計活動も制限され、また治安面でも人々は不安を抱えて生活を送ってきました。

(2) 事業地 ミンドロ島オリエンタルミンドロ州プエルトガレラ市

(3) 実施事務所 マニラ事務所

(4) 事業のパートナー

ビリャフローの村人11名

(5) 主な成果

- ・次年度に本格的に開始するにあたり、調査準備が終了しました。

(6) 特記事項

- ・本事業は、中小企業進出のための「JICA民間提案型・普及実証実験事業」の一環として、実施されています。

(7) 内容

1) 調査計画書の作成

パートナー企業や町役場とともに、次年度に本格的に始まる調査について、会議を行いました。

2) 水源管理の維持システム調査

プエルトガレラ市ビリャフロー村の基本情報についての調査を行いました。

(8) 収支実績 収益0円 費用17,035円



8、ジェネラルサントスの子どもたち（1994年～）

(1) 背景

ミンダナオ島の南部に位置するジェネラルサントス市は、人口約54万人、世帯数約11万の地方都市です。ツナを日本に輸出しており、またパイナップルやバナナ等の農産物を収穫できますが、大農場や工場を持つ一握りの資本家へ富が集中しており、多くの人々が最低限の生活状況を強いられています。そのため、公立学校にさえ子どもを通わせ続けることができない家庭が少なくありません。このような状況に対して、アイキャンは1994年より、通学補助や多文化間の相互理解を促進する活動を行ってきました。

(2) 事業地

ミンダナオ島南コタバト州ジェネラルサントス市

(3) 実施事務所 ミンダナオ南部事務所

(4) 事業のパートナー

ジェネラルサントス市の経済的に困難な状況にある高校生と大学生21名

(5) 主な成果

- ・経済的に困難な状況にある高校生から大学生21名が、通学を継続することができました。

(6) 特記事項

- ・今年度、16名の奨学生が高校を卒業し、そのうち4名がジェネラルサントス市の難関公立大学であるミンダナオ州立大学に合格しました。また、1名の奨学生が大学を卒業し、現在は教員試験のための準備をしています。
- ・本事業では、新規の奨学生を募集せず、2005年の時

点で約200名いた奨学生が全員卒業するまで事業を行います。今年度末で奨学生の数が、10名となっています。

(7) 内容

1) 通学補助（学用品や通学経費等の提供）

経済的に困窮している家庭の子どもたち21名（高校生17名、大学生4名）が、継続して通学できるように、学用品（ノート各種、鉛筆、ペン、消しゴムなど）、制服、傘、靴、靴等の備品を提供し、また学費、通学交通費、教材費、卒業経費を提供しました。

2) 緊急医療補助

今年度、奨学生の入院等のケースはなく、医療補助は行っておりません。

3) カウンセリング・相談

スタッフが子どもや保護者の抱える課題について相談に乗り、解決をはかりました。年間を通じて、家庭や学校を訪問して保護者や教師と話し合い、子どもたちが継続して通学できるよう協力しました。月1回、事務所で子どもたちに会って通学状況を確認し、問題の早期発見に努めました。

4) 「子ども集会」の開催

5月下旬に事務所にて、奨学生たちとその保護者が集う「子ども集会」を開催しました。子どもの権利や、子どもの教育における保護者の責任について議論をしました。

(8) 収支実績

収益 396,000円 費用313,921円



9、外国にルーツを持つ子どもたち（2009年～）

(1) 事業背景

日本に住む外国にルーツを持つ子どもたちの親の多くは、日本語を読むことができず、学校から配布される文書を介した情報が入りにくい状況に置かれています。特に、親の的確な情報を伝えることができない幼児や小学校低学年の子どもの家庭では、情報がない親が子どもの教育を支えることができず、子どもの学力低下や学校活動への不参加に繋がる問題があります。更に、小学校高学年や中学生においては、学業上必要な日本語力の不足のため、成績不振により進学を諦めざるを得なかったり、日本語が理解できない親を子どもが見下したり責めたりすることによる家庭崩壊も引き起こしてきました。このような状況に対してアイキャンでは、外国にルーツを持つ子どもたちの教育環境を改善するための無料翻訳サービス事業を、2009年より行なってきました。

(2) 事業地 日本全国

(3) 実施事務所 ICAN 日本事務局

(4) 事業のパートナー

外国にルーツを持つ子ども 190名

(5) 主な成果

- ・190名の外国にルーツを持つ子どもを生徒に持つ親が学校の情報を把握することができました。
- ・124名が、外国にルーツを持つ子どもの状況の理解を深めることができました。

(6) 特記事項

翻訳ボランティアの募集と翻訳方法のルール化を行

いました。

(7) 内容

1) 無料翻訳活動

124名のボランティアにより、183件の翻訳作業を行いました。内容は、学校の学年通信や学級通信、保育園便り、懇談会、健康診断、運動会のお知らせ、通知表、時間割表、災害時の対応等の文書でした。

2) 実施体制の強化

翻訳ボランティアコーディネータを1名増員し、3名の体制となりました。更に、英訳原稿校正ボランティアや英語以外の言語のボランティアを再募集し、新たに41名のボランティアが登録され、翻訳の質の向上と多言語での実施体制が整いました。

3) 啓発活動

翻訳ボランティア募集の告知を、ボランティアや国際協力に関する各種サイトに掲載し、高い語学力を持つだけでなく本事業の主旨に賛同する方へのボランティア登録を呼びかけました。また、他事業に関する各学校への資料送付の際にも本事業のチラシを同封し、翻訳依頼を無料で受け付けていることを広く伝えました。

(8) 収支実績 収益 18,000円 費用 140円

10、子どもの参加を促進する事業

「子ども議会」の開催は、予定していた時期に、災害が発生したため、実施を見送りました。

※子ども事業全体の共通経費

(8) 収支実績 収益 2,839,917円 費用 140円

2、「できること (ICAN)」を増やすプログラム



11、国際理解教育（開発教育）事業（1994年～）

(1) 事業背景

情報化社会が進み、あらゆる情報をより容易に得やすくなってきているものの、社会の中で弱い立場に置かれた人々の「こえ」が社会に伝わる機会は、未だ限られています。アイキャンは1994年より、国や地域を超えて相互理解を促進する様々な活動を行なってきました。

(2) 事業地 日本、フィリピン各地

(3) 実施事務所 全事務所

(4) 事業のパートナー 一般市民 7,081名

(5) 主な成果

7,075名の国際理解を促進することができました。

(6) 特記事項

- ・「平和のキルト」キャンペーンによって、新たに5つの学校や企業がアイキャンの活動に参加しました。
- ・台風30号の影響により、フィリピンの学校での授業は、次年度に持ち越しとなりました。

(7) 内容

1) 学校での授業・講義 19件、1,552名

①日本：東海学園大学（7回）、愛知淑徳大学（3回）、聖霊中学校（2回）、名古屋学院大学、津島市立西小学校、関市立富野中学校、国士舘大学、椋山女学園高等学校、名古屋経済大学高蔵高等学校。

②フィリピン：日本福祉大学

2) 開発教育講座やイベント等 18件、374名

① 自主企画：フィリピン&ボランティア入門講座（2回）、帰国報告会（6回：岩下、松浦、井川、福田、関口、阿部）

② イベント参加：ガールスカウト三重県連盟ギャザ

リング、寿がきや食品株式会社社内勉強会、スタディツアー合同説明会、学生アゴラ、アイセック名古屋市立大学委員会パネルディスカッション、コープカレッジあいち（2回）、フェアトレード名古屋ネットワーク定例会、ヨガハート2013、株式会社デンソー・ハートフルフレンドチーム勉強会

3) 事務所訪問受け入れ 5件、24名

愛知美術研究所、犬山市立犬山中学校、株式会社スターシャル教育研究所、南知多町立篠島中学校、瀬戸窯業高等学校

4) 絵手紙大会（トゥライプロジェクト）

愛知県内の中学・高校生とフィリピンの子どもたち4,252名が参加しました。「10年後の私」をテーマに描いた絵とメッセージを載せた絵手紙を、イオンモール大高やフィリピンの各学校に展示しました。

5) 「平和のキルト」キャンペーン

東海地域の学校・企業・団体から753名が参加し、ミンダナオ島の平和への願いを込めたキルト計862ピースが集まりました。キルトは繋ぎ合わせてミンダナオの学校に届けられました。

6) 海外研修・事業地訪問の受け入れ 15件、126名

名古屋国際高等学校、広島大学、早稲田大学、同志社大学、明治学院大学、青山学院大学、喜多機械産業株式会社、四国電力株式会社・四国計測工業株式会社、天理教、CREATIVE CONNECTIONS & COMMONS Inc.、国会議員・大使館員、JICA、個人視察1件、1日事業地体験2回。モジュールの改定に向けて学校と検討を行いましたが、大きな変更には至りませんでした。

(8) 収支実績 収益 4,858,485円 費用 3,090,761円



12、語学教室（スマイルチケット）事業（2011年～）

(1) 背景

世界中の人々が地球規模の課題に対して連携して行動することが求められる中、意思疎通手段としての「語学力」が重要になっています。しかし日本において語学力を伸ばす機会や、母語以外の言葉をもって地球規模の課題について議論する機会も依然として限られています。アイキャンでは一般市民の語学向上と、語学学習を通じた異文化理解や開発課題に関する理解の促進を目指して、語学教室を開講してきました。

(2) 事業地 日本事務局事務所内

(3) 実施事務所 日本事務局

(4) 事業のパートナー

一般市民 63 名（通常講座 40 名、企業連携 23 名）

(5) 主な成果

- ・一般市民 63 名の英語・タガログ語が向上しました。
- ・一般市民 63 名の異文化理解と地球的規模の課題に関する理解が促進されました。

(6) 特記事項

- ・受講者がスタディツアーや街頭募金ボランティアへ参加するなどの波及効果が出ています。
- ・授業の質の向上や環境の充実化を促進できました。

(7) 内容

1) 語学教室（スマイルチケット）の運営

① 通常講座：英会話

フィリピン人の講師 14 名のもと、34 名に対し、以下のクラスを計 292 回開催しました。

- ・「ゼロから始める英会話」：初心者を対象とした、挨拶や簡単な日常英会話等の授業

- ・「趣味の英会話」：初級～中級者を対象とした、面白い物の仕方や趣味などについて話す方法の授業
- ・「海外ニュースの英会話」：上級者を対象とした、国際記事や地球規模の課題について話し合う授業

② 通常講座：タガログ語

フィリピン人の講師 6 名のもと、8 名に対し、以下のクラスを計 74 回行いました。

- ・「ゼロから始めるタガログ語」：初心者を対象とした、簡単な挨拶や単語、数字等の授業
- ・「趣味のタガログ語会話」：初級～中級者を対象とした、お店での注文方法や日常会話等の授業
- ・「4 回パッククラス」：4 回限定のクラスで、簡単な挨拶や単語、旅行に必要なフレーズ等の授業

③ 企業連携：タガログ語（旅行会社との提携）

23 名に対し行いました。

2) 授業の質の向上

ガイドラインを作成し、授業の流れを統一することにより、復習時間などの確保ができました。

3) 教室の設備及び備品の充実

ホワイトボードパーテーションや机、椅子を整備し、2 クラス以上の同時開講を可能にしました。また、フィリピンの事業進捗の様子を展示しました。

4) イベントの実施

9 月に BBQ パーティー、10 月にハロウィンパーティー、4 月に春の宴を開催し、講師も含め延べ 63 名が参加しました。

5) 広報強化

チラシや facebook などで広報を行いました。

(8) 収支実績

収益 2,262,420 円 費用 1,140,408 円



13、スタディツアー・研修事業（2000年～）

(1) 事業背景

危機的状況にある子どもたちの課題を解決するためには、一人でも多くの人々が、実際に子どもたちからその状況を学び、それを一人称の「自分の問題」として認識して、行動していく必要があります。そのため、アイキャンでは2000年より、路上の子どもたちやごみ処分場周辺に住む子どもたち等、事業地の子どもたちと日本からの参加者の交流を行う「アイキャンスタディツアー」と社会開発の基礎を習得する「社会開発研修」を実施してきました。

(2) 事業地 マニラ首都圏

(3) 実施事務所 日本事務局、マニラ事務所

(4) 事業のパートナー

日本の一般市民43名、フィリピンの子ども179名

(5) 主な成果

- 日本の一般市民43名が、世界規模の課題やNGOの活動について理解を深めました。また、同43名とフィリピンの子ども312名が、交流を通して相互理解を促進することができました。

(6) 特記事項

- 旅行会社と連携をしたことにより、航空券の手配や保険加入手続きがスムーズになりました。
- 台風30号の影響により、12月開催予定であったスタディツアーを中止しました。

(7) 内容

1) ツアー内容

基本的内容：4泊5日

1日目：集合、オリエンテーション等

2日目：ごみ処分場の子どもたちとの交流

3日目：路上の子どもたちとの交流

4日目：子どもたちとの遠足、買い物等

5日目：解散

2) 詳細

—8月、9月（夏プランA、B、C）

参加者：A-9名、B-9名、C-11名

実施期間：

- ・A:2013年8月7日から8月11日（4泊5日）

- ・B:2013年8月21日から8月25日（4泊5日）

- ・C:2013年9月11日から9月15日（4泊5日）

—12月（冬プラン）

台風30号の影響により開催中止

—3月（春プランA、B）

参加者：A-7名、B-7名

実施期間：

- ・A:2014年3月5日から3月9日（4泊5日）

- ・B:2014年3月19日から3月23日（4泊5日）

3) モジュール改訂作業

これまでのツアー内容を大幅に見直すことを目的に、話し合いが行われましたが、結論は次年度に持ち越しとなりました。

4) 帰国後の報告会の開催

9月に帰国報告会を実施し、8名の夏プラン参加者が体験談などを共有するとともに、次回のツアーへの参加を呼びかけました。

(8) 収支実績 収益2,509,000円 費用1,804,570円



14、フェアトレード事業（2000年～）

(1) 背景

「買い物」を通じて、平和な社会の構築を目指すフェアトレード（公正な貿易）運動は一部で盛り上がりを見せつつも、参加の機会は依然限られています。アイキャンでは、フェアトレードの認知度とその意義をより多くの人に伝えると同時に、パヤタスごみ処分場で活動続ける女性フェアトレード生産団体（SPNP）をはじめとする各団体の運営を支え、生産者のエンパワメントと収入向上、そして日本の消費者との橋渡しを行ってきました。

(2) 事業地 日本全国、マニラ首都圏

(3) 実施事務所 日本事務局、マニラ事務所

(4) 事業のパートナー

生産者団体（SPNP）メンバー8名、一般市民2,742名

(5) 主な成果

- ・ SPNPメンバー8名の収入が向上しました。
- ・ 一般市民2,742名※が、生産者の状況やフェアトレードの重要性を知ることができました。※委託等を通じた販売者数は含まず。（物販288名、飲食2,454名）
- ・ 13店舗にフェアトレード商品を納入できました。

(6) 特記事項

- ・ 販売ボランティアは、48名（延べ62名）でした。
- ・ 高品質の単価の高い新商品の販売が始まりました。
- ・ グローバルフェスタでの飲食販売を行いました。

(7) 内容

- 1) フェアトレード商品やフィリピン料理の販売
マニラからSPNPの商品を仕入れ、下記のイベント等で販売をしました（委託販売含む）。また、東京

のグローバルフェスタ、大阪のワンワールドフェスティバルで飲食の販売を行いました。

① イベント等での販売先（委託含む）33件

名古屋フェアトレードデイ、愛知大学国際協力サークルSEED、デンソーハートフルまつり、東別院御坊夏まつり、東別院御坊桜まつり、愛知工業大学名電高等学校、名古屋国際中学校・高等学校、YWCAバザー、立教大学フェアトレードパートナー、AHIオープンハウス、グローバルフェスタ、フェアトレードマルシェ、西遠女子学園、犬山中学校、青山学院大学、ワールドコロボ、愛知淑徳大学、高知商業高等学校、ふれあいフェスタ、亀山高校インターアクト部、ワンワールドフェスティバル、アジアフェスティバル、ツキイチ・マルシェ、ガールスカウト・シンキングデー、ふれあいバザー、グローバルカレッジ、ソルトバザー、ソルトお土産バザー、日本人会ハンディクラフトバザー、日本人会ホップフェスタバザー、MJS祭、MJS盆踊り大会、チャリティコンサート Love for All

② 委託店13店舗

カフェアイリス、子どもと女性のイスラームの会CWIA、ほっとはむ、土川商店、マジックマーマ、オフィスTEN、フェアビーンズ、刈谷市国際交流協会、エシカルペネロープ、はちみつカフェ、名古屋YWCA、風”s、ユニカセ

2) フェアトレードの啓発活動

FTNNの定例会に4回参加し、フェアトレードを広めるための連携を強めました。

(8) 収支実績 収益2,253,923円 費用2,705,588円



15、NGO 相談員事業（2010 年～）

(1) 事業背景

一般市民の NGO に対する認知度は高くなく、特に地方での NGO 活動の活性化が求められています。アイキャンでは、外務省委託の「NGO 相談員」中部ブロック担当として、NGO の能力強化と認知度向上を目的に、NGO に関する相談を受け付けてきました。

(2) 事業地

中部・北陸 9 県（担当ブロック）、他都道府県

(3) 実施事務所 日本事務局

(4) 事業のパートナー 一般市民 1,060 名

(5) 主な成果

- ・市民 1,060 名の NGO に関する知識が向上しました。

(6) 特記事項

- ・台風 30 号に関する相談に多数対応しました。

(7) 内容

1) 通常相談業務 1,060 件

5 月 11 件、6 月 101 件、7 月 111 件、8 月 97 件、9 月 79 件、10 月 114 件、11 月 167 件、12 月 112 件、1 月 96 件、2 月 92 件、3 月 80 件

2) 出張相談業務 計 7 件（相談 5 件、講演 2 件）

グローバルフェスタ（東京）、ワールドコラボフェスタ（愛知）、国際交流フェスティバル（富山）、国際協力カレッジ（愛知）、ワンワールドフェスティバル（大阪）、拓殖大学（東京）、大阪府立芥川高等学校（大阪）

3) 全国相談員会議への出席 計 2 回

6 月に東京、12 月に福岡の会議へ参加しました。

(8) 収支実績 収益 3,247,016 円 費用 4,816,693 円

16、インターン育成事業(2010 年～)

(1) 背景

NGO への就職希望者は増えているものの、即戦力となるための就業経験を得られる機会は限られています。アイキャンでは、これまで一定期間の就業機会を提供し、将来 NGO スタッフとして活躍する人材の育成を行ってきました。

(2) 事業地 マニラ首都圏ケソン市

(3) 実施事務所 マニラ事務所

(4) 事業のパートナー インターン 14 名

(5) 主な成果

- ・インターン 14 名が基本的な社会人マナーや事業地での住民とのコミュニケーション方法、開発事業運営の知識と経験を習得しました。

(6) 特記事項

- ・台風 30 号の影響により、在フィリピン日本大学院生用制度新設は、次年度に持ち越しとなりました。

(7) 内容

1) 日本人インターン 1 名

121 日間の実地研修を実施し、ごみ処分場周辺地区に暮らすフェアトレード生産団体 (SPNP) の事業運営や会計業務、各開発事業の補助、スタディツアー運営補助等を行いました。

2) フィリピン人インターン 13 名

フィリピンポリテクニク大学から 2 名、リザールシステム大学から 11 名のフィリピン人インターンを受け入れ、路上事業運営の経験を積む機会を提供しました。

(8) 収支実績 担当の各事業に計上



17、MY アイキャン事業（2013年～）

(1) 背景

地球規模の様々な課題に対し、生まれ育った地域に根ざして行動することができる機会は限られています。アイキャンは、設立以来、その団体名が示す通り、「できること(ICAN)」を実践する人を増やし続けてきました。

(2) 事業地 愛知県、マニラ首都圏ケソン市

(3) 実施事務所 日本事務局、マニラ事務所

(4) 事業のパートナー 一般市民324名

(5) 主な成果

- ・コープあいちとの連携により、書き損じハガキや切手等収集活動に参加して下さる人数が、大幅に増加しました。

(6) 特記事項

- ・台風災害直後、多くの方が街頭募金に参加して下さいたことにより例年の約4倍の募金を集めることができました。

(7) 内容

1) 物資の収集活動

ハガキ 2,296,433 円分と未使用切手 732,200 円分、未使用テレホンカード 412,420 円分、商品券 144,100 円分を収集できました。また、古本・CD・DVD は 218,520 円分集まり、子どもの教育寄付を合計 3,803,673 円分集めることができました。

2) 各地のボランティア活動の促進

①名古屋での活動

170名（延べ280名）のボランティアが、路上の子どもたちの保護施設設立資金や台風被災地での活動資金を集めるため、名古屋の大通りにて、17回街頭募金を

行い、延べ2,143名から597,599円の募金を受け付けました。また、学生、スマイルチケット生徒等116名（延べ509名）が、事務局にて会報の発送作業、書き損じハガキや切手等のカウントボランティアを行い、34名がフェアトレードの販売ボランティアとして活動しました。

②東京での活動

10月5日（土）・6日（日）、東京と名古屋で活動するボランティア10名が中心となり、東京の「グローバルフェスタ」に出店し、フェアトレード商品やフィリピン料理の販売、アイキャンの活動説明を行いました。

③大阪での活動

2月1日（土）・2日（日）、大阪と名古屋で活動するボランティア12名が中心となり、大阪の「ワンワールドフェスティバル」に出店し、フィリピン料理の販売を担いました。

④マニラでの活動

マニラ事務所では、4名のボランティアがフェアトレード業務、事務作業、路上事業の補助等を行いました。

3) 現金寄付による活動参加

現金による寄付は、2,972名・団体から総額58,709,489円が集まりました。その内、マンスリーパートナーは90名となり、総額1,349,200円分の寄付となっています。

(8) 収支実績

収益 200,000 円 費用 202,184 円

18、小規模委託事業

(1) 背景

ケアインターナショナルジャパンが外務省補助金のNGO研究会を受託し、「ジェンダーとNGO」と題するワークショップを名古屋で開催することとなりました。

(2) 事業地 愛知県

(3) 実施事務所 日本事務局

(4) 事業のパートナー 一般市民 6名

(5) 主な成果

・6名のジェンダーに関する知識が向上しました。

(6) 特記事項

・元 ICAN 職員の紹介で実現しました。

(7) 内容

1) 会場の提供と設営

ケアインターナショナルがワークショップを開催するにあたり、日本事務局の一部を提供し、その設営を行いました。

(8) 収支実績 収益 27,300 円 費用 25,813 円

その他の活動に係る事業

今年度の実施はありませんでした。

3、会議の開催に係る事項

A、総会

(1) 2013 年度第一回会員総会

1) 開催日時及び場所

・2013 年 7 月 27 日 (土) 13:00~15:00

・日本事務局

2) 議案

① 2012 年度事業報告書について

② 2012 年度活動計算書について

③ 2013 年度事業計画書について

④ 2013 年度事業予算書について

⑤ 定款変更について

⑥ 理事の改選について

B、理事会

(1) 2013 年度第一回理事会

1) 開催日時及び場所

・2013 年 6 月 28 日 (金) 19:00~21:00

・日本事務局 (一部スカイプ参加)

2) 議案

報告事項

① 監査・税務報告について

② 2012 年度決算について

③ 2012 年度事業報告について

④ 役員改選について

審議事項

① 総会スケジュールについて

② 2013 年度事業計画について

③ 定款変更について

④ 会員制度について

(2) 2013 年度第二回理事会

1) 開催日時及び場所

・2013 年 7 月 18 日 (木) 20:30~22:30

・愛知県名古屋市 (一部スカイプ参加)

2) 議案

① 2012 年度事業報告書について

② 2012 年度活動計算書について

③ 2013 年度事業計画書について

④ 2013 年度事業予算書について

⑤ 定款変更について

⑥ 理事の改選について

⑦ 2013 年度第一回会員総会の日程について

(3) 2013 年度第三回理事会

1) 開催日時及び場所

・2013 年 12 月 25 日 (水)

・定款に基づき電子メールにて実施

2) 議案

① フィリピン現地法人設立について

② 現地法人の役員の選任について

③ 土地の購入について

(4) 2013 年度第四回理事会

1) 開催日時及び場所

・2014 年 4 月 6 日 (日)

・定款に基づき電子メールにて実施

2) 議案

① フィリピンメインバンクの設定と口座開設について

② 銀行署名人変更について

③ 銀行署名人権限について

④ 清水の署名人取り消しについて

⑤ 現地法人理事会のセクレタリーについて

以上

